

＜留萌＞思想・信教を守る集会『“私”を生きる』上映会

2・11は思想・信教を守る集会「“私”を生きる」上映会を行いました。東京都教育委員会による学校教育の言論統制に毅然と立ち向かう教師三人が、日本社会の“右傾化”“戦前への回帰”に抵抗し、自分らしさを貫くべく闘うドキュメンタリー。2時間強の映画ゆえ、土肥信雄さん（元三鷹高校校長）お一人のみを鑑賞しました。

都教委にたいして現職の校長として初めて公に異議を唱えた土肥さんは生徒一人ひとりの名前を覚え、生徒たちと積極的に関わる姿が映し出されていました。朝礼では毎回のよう^にに平和主義と基本的人権の尊重を語り、自らの教育実践の中で言論の自由の大事さを訴えていたと生徒たちが語っていました。

都教委が2006年4月に職員会議にて教員の挙手・採決禁止の通達を出した際、土肥さんは「教職員から言論の自由を奪うため民主主義を教える学校現場に^{なまじ}馴染まず学校の活力をも奪ってしまう」と撤回を要求し、マスコミを巻き込んで公開討論会を要求。しかし、都教委は組織内のことだからと拒否。生徒からも親からも信頼を受けていた土肥さんに対する都教委の評価はすべて最低。理由は「誤解を招く発言を繰り返すとともに、具体的根拠のない主張を報道機関に流布する。」「都立学校に対する生徒・保護者・都民の信頼を著しく^{おとし}貶め、」と虚偽に満ちた文が連ねました。これに対し、都教委に従わない校長や教員への見せしめの言論統制だとし2009年に裁判を起し、現在、闘っておられるとのこと。

たいへん多くの刺激を受けつつ、元教員のかつての学校のあり方や、現任教職員からの学校の問題などを分かち合いました。